精神科看護師の365日

平成25年度から取り組んでいる日精看のテーマ「365」にちなみ、全国のさまざまな施設で働く精神科看護師の日常を紹介します。

file.14

教育ナースの1日

宮城大学看護学部精神看護学領域准教授
大熊恵子さん(45歳・精神科看護歴13年)の場合

精神科看護師になったきっかけ

大学卒業後に入職したのは外科病棟でしたが、終末期の患者さんが多く、患者さんの「どう生きるか」という意思決定をサポートできる看護師になりたいという思いが強くなりました。母校である聖路加看護大学の大学院修士課程で、統合失調症の方の意思決定プロセスについて研究した後、精神科の単科病院で5年ほど勤め、精神科リハビリテーションや退院支援にも携わりました。実習で学生さんと触れあうなかで「教育に携わりたい」という目標が生まれ、母校で助教を5年勤め、さらに研究を進めるために博士課程を修了した後、今年4月より現職に就きました。

現在の仕事内容

約90人を対象に週に3コマの講義を担当するほか、学生7人の卒業論文指導を行っています。また、学内の委員会活動として、学生の生活相談などにも携わっています。前期は主に講義が中心ですが、後期は実習指導も加わります。私の役職は准教授ですが、精神看護学領域の教授がいないため、同領域全般の取りまとめを実質任されています。

大熊さんの

ある日のスケジュール

8:30	出勤　メール対応
9:00〜	講義準備、卒業論文指導、学生相談の対応、委員会の連絡など
12:00	昼食休憩、講義準備など
14:30	講義
16:00	講義準備、学生指導、研究活動など
19:00〜20:00	退勤

やりがいや励みになること

「精神科看護はなにをするのかよくわからない」と言っていた学生が、「精神科看護の面白さや奥深さがわかった気がします」と言ってくれるときはうれしいです。そのような気づきを得てもらうために、できるだけ患者さんとともに時間を過ごせるように実習を組み立てるように心がけています。たとえ対話をしなくても、共に時間を過ごすだけで築ける関係があることなど、精神科看護ならではのコミュニケーションの価値を伝えていきたいと思います。

今後の目標

私が博士課程に入学したのは2011年4月。その1か月前に東日本大震災が起きました。「エンパワメント」「リカバリー」をテーマに、精神障がい者に限らず多くの方々にとって力になれるサポートができるようになりたいという思いで、就職先も東北被災地の大学を選びました。これからも教育・研究の現場から社会貢献できるよう努力を重ねていきたいです。